

# エゾマツ



No.57

2001. 6. 15

北海道ボランティア・レンジャー協議会

# 目次

1. 巻頭言 外来種と付き合い ..... 会長 川端 功治 ..... (1)
2. 生涯学習と研修 ..... (2)
3. 会員の声 ..... (4)
4. 地方支部便り ..... (6)
5. 横目で見ると北イタリア美術館巡り (その二) ..... 佐藤 健一 ..... (7)
6. 野幌自然観察会 ..... 五十嵐 一夫 ..... (12)
7. 第16回定期総会報告と議案書 ..... (14)
8. ボランティア・レンジャー協議会役員名簿 ..... (26)
9. 観察会研修会情報 ..... (27)
10. 編集後記 ..... (29)

“ 外来種と付き合う ”

会長 川端 功 治

所謂外来種と称する生物が、年々増えつづけているように思われます。

良きにつけ、悪きにつけ、話題の豊富な外来種が、北海道にどの位増え続けているのだろうか。幸い植物については私達の尊敬する畏友ムーブ設計の五十嵐博氏が、北海道地図のメッシュに出現地を表現すると云う偉業をなし遂げ近々中に公表する運びとなつたことは誠に慶賀に耐えません。

外来種とは何かを知る為には、その植物の名前を覚えることから始めなければなりません。あるネイチャーゲームで、次の植物で、外来種はどれですか、と出題したところ、全問正解者は一人もいなかったそうです。

\*問題 エゾノギシギシ、エサシソウ、ヤマゴボウ、エゾノヘビイチゴ、ソバ、

外来種と私達の生活との係わり合いを調べて、その功罪を論ずる為にはそれぞれの名前を知ることが大切です。上記の問題の正解は全問題が外来種です。

チョウセンゴミシは外来種とされていた時代があったが北日本に広く分布していることが確認されて、しかも遺伝子が共通していることからチョウセンの肩書のまま国産種と見なされ外来種のリストから外されました。長年慣れ親しんできた植物でもこのようなことが起こり得るところが、外来種分類の泣きどころなのです。かつては大陸と陸続きであった日本列島の植生に及ぼす遺伝子の宿命的なものを感じます。

札幌市近郊に増えつつある外来種のリスト表を見せてもらいましたが、いずれも見覚えが無く当惑するばかりです。

\*ワタゲツメクサ、アメリカホドイモ、アメリカイヌホウズキ、オオセンナリ、

シャグマハギ、オニツリフネソウ、ヤグルマハギ、

以上は最近の侵入した新顔だそうです。

野幌のふれあい交流館が落成しテープカットのセレモニーに参加していたところ、誰かが遠くでオオジシギが来ているゾ!と叫ぶ声に呼応して駆けだす人が居ましたので、ご婦人達と論議したセイタカアワダチソウの件を思い出しました。

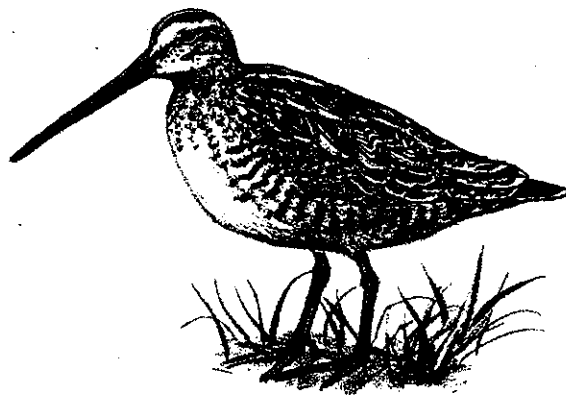
「子供達のチャンバラゴッコの遊び相手のセイタカが交流館の建設で潰される。セイタカを守るの会を作って建設反対運動を展開したいが良い智恵をお貸し下さい」私は咄嗟に「それはオオジシギを守るの会に連動しているのですネ」と念を押したら「そうです」答えたので私の腹は決まりました。

「お止めなさい。撲滅を叫ぶセイタカの花粉症に苦しむ患者の声を聞きなさいそんな恐ろしいセイタカの生えている場所が遊び場とは信じられません」。

「オオジシギさんに、こんな人家のゴチャゴチャしたところでの巣作りはお止めになっては。なんだかんだと騒ぎが起きるので、広々とした勇払原野にお戻り下さい」とお願いしてみても、と話かけようと思ったら誰も居ませんでした。

いろいろな思い出が去来するふれあい交流館ですが、結果良しで、野幌森林公園の自然をこよなく愛する数多くの人々の拠点となつて、未長く愛用されるものと信じます。

それにしても思いがけないところに突然に、顔を出す外来種の生態はより詳しく、知りたいものです。



## 生涯学習と研修

生涯学習という事がよく言われます。生涯学習とは、つまるところ、一人ひとりが自らの必要に応じて、自らの意思で自発的に生涯を通じて行う学習の事です。

特に、高齢化の社会に移行しつつある現代においては、生涯、心豊かで充実した生活が求められています。そのことが生きがいにもつながっていきます。

私たちボランティア・レンジャー協議会の会員は、自然を良く知り、自然の保護保全について日常的な実践活動をすすめています。そして、実践活動の質を高めようと努力している姿に生涯学習の意義を見出だすのです。

実践活動の質を高めるには、研修意欲がなければなりません。研修には、自己研修もありましょう。また、相互研修、グループ研修など様々な形があります。心の通い合うメンバーと進める研修は楽しさが倍増します。

今年度、会員の実践活動の質を高めるため、多くの研修の機会を計画しました。

下記の日程のなかで、皆さんの都合のよい日がありましたら、是非、研修会に参加して、学び合い、自分の力量を高めましょう。

多くの会員の皆さんの参加をお待ちしています。

### ◆講師 村野道子氏による研修会

6月24日(日) 10:00~ ふれあい交流館(大沢口)

7月 8日(日) 10:00~ ふれあい交流館(大沢口)

### ◆下見を兼ね 講師 田城敏雄氏による研修会

6月 2日(土) 10:00~ 野幌森林公園 森の自然教室

7月14日(土) 10:00~ ふれあい交流館(大沢口)

8月 2日(木) 10:00~ 野幌森林公園館 開拓記念館

9月 8日(土) 10:00~ 野幌森林公園 森の自然教室

### ◆宿泊研修会

6月30日(土) 夕刻 ニセコ ペンションふきのとう

9月22日(土) ~ 23日(日) 支笏湖観光ホテル 湖水館

# 会員の声

小鳥（その後）

札幌市 香島 由美子

ひよどりの子育てを見れずじまいになっていた我が庭に、今年 鶯の声が二日くらい響きました。何とも言えぬ甘い声でした。その前日にスズメが換気扇の中に巣作りをしている声に気づきハラハラしていたところでした。庭の樹木は手に負えなくなると、うっ蒼として、そんな中に、鶯がやって来ようとは……。 おおきな茂みがマンションに変わるときも、アカゲラがウツ木に止まった事がありました。一度しか起こらぬことかも知れませんが、沈黙の夏に終わらせまいとする警鐘のように聞こえました。一方サクランボの小枝が茂って、これは切らねば……。

野鳥との出会い

江別市 今野 義也

私が野鳥と出会ったのは、中学2年のころである。釧路の武佐の原野で望遠鏡で鳥を見たとき、赤く美しい鳥を見た。図鑑でさっそく調べたところベニマシコであることが分かった。この鳥の名がスズメ、カラス以外で初めて知った野鳥の名前であった。釧路の原野ではオオジシギが普通に見られた。あのジェット戦闘機のような行動、音にはただ驚かされるばかりである。私は今、江別の ゆめみ野といういわゆる新興住宅街に住んでいる。2週間前に自宅の前でオオジシギを見て野鳥と出会ったころを思い出した。

釧路市 佐々木 文雄

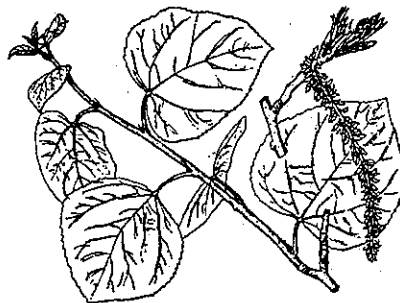
今年こそは定期総会に出席して、目の当たりに、会の動きや会員各位のご活躍ぶりを、おうかがいしようと思っていたながら、諸般の事情でそれがかなわず、とても、残念に思っています。札幌と釧路が、距離的、時間的に離れていることも、一つの負担になっていることは、否めない事実でもあります。

ともあれ、当地方には、格好のフィールドが散在しています。そして、それぞれの地に、ボランティアで自然解説等の活動をしている人達がおります。わが会員も、その中に加わって活動している様子を耳にし、意を強くしているところです。

千歳市 橋場 俊子

今日なにげなくラジオをかけると、黒姫に住んでいるC. W. ニコル氏へのインタビュー番組でした。日本人の「まだ（森、自然は）少し残っているという考え方は危険だ」というお話と、「少しづつ里山を買って、それを原生林にもどしている」と言うことを話され、黒姫の豊かな動物達についても言及されてましたが、なにしろ時間が短い。

当会の二十周年特別事業でニコル氏の講演が聞けたらなーと夢のようなことを思ってしまったのでした。



## 地方支部便り

今回から地方支部と連携を深めるため、地方支部や、その地で活躍する会員さんの動向などを紹介するページを作りました。

2年ほど前から小樽地区で年間10回の観察会を開催している、北原武会員の観察会の報告を簡単に紹介します。

5月12日(土) 小樽市の市有林、旭町地区から長橋地区にかけ観察会を開催しました。

当日遅咲きのはニリンソウ エゾエンゴサク オオカメノキの花が咲く遊歩道を、樹木の芽吹きを中心に観察しました。

残念なことは林道横に電気器具類の不法投棄が、あちこちにみられたことです。尚、当日は北海道新聞社小樽支社の青山記者の同行取材があり、この模様は5月13日の小樽版掲載されました。

当日の参加者数 21名 レンジャー2名 でした。

5月27日(日) 塩谷丸山の登山観察会 JR塩谷駅から丸山往復約8Kmの道程を、野鳥のサエズリを聞きながら、参加者の協力により登山道のゴミ拾いをおこないました。

標高500m付近の台地では、約1Kmにわたる道沿いに、ハクサンチドリの子孫がみられました。

近年は登山者が多いようで、登山道入り口あたりにトイレが欲しいところです。

当日の参加者数 45名 レンジャー1名 アシスタント2名 でした。

札幌支部の応援が欲しい所でした。

後志支庁と当会后志支部の共催で観察会が開催されました。

日時 6月2日(土) 10:00~12:00

場所 倶知安町羊蹄山登山口の半月湖周辺

前日の雨もあがり、清々しい散策路をカッコウの声を聞きながら、エゾタンポポ、ツバメオモト、ベニバナイチャクソウ、アオチドリなど、昆虫ではサッポロマイマイ、エゾマイマイが観察されました。

当日は、終了時間を30分もオーバーするほど、内容のある観察会でした。

一般参加者22名、後志支庁3名、当会は金丸忍、北原武会員の2名でした。



さて、ガイドさんにお任せのイタリア芸術鑑賞流れ旅、バスに乗ったり降りたり、その間、美術館や有名礼拝堂に入ったり出たりの繰り返して、肝心なことを申し上げるのを忘れておりました。

と申しますのは、今回の旅行目的のタイトルであります「名画、受胎告知を訪ねて」ですが、(その一)で申し上げましたようにイタリアルネサンス芸術の中身はさておき、「名画、受胎告知」とは何かくらいは、ご存知の方は多々おられると思いますが、簡単に説明させていただきます。

宗教画で申します受胎告知とは、処女マリアが天使ガブリエルから精霊によって身ごもったと知らされる、場面の想像画のことをいいます。

聖書では、新約聖書のマタイによる福音書と、ルカによる福音書に、受胎告知の記述があります。

マタイによる福音書は神学的表現とされ、ルカによる福音書は物語的である、とされていますが、聖書をお持ちでない方もおられると思い、参考までにルカによる福音書の第1章26節から35節までを書きます。

六か月目に、天使ガブリエルは、ナザレというガリラヤの町に神から遣わされた。ダビデ家のヨセフという人のいいなづけであるおとめのところに遣わされたのである。そのおとめの名はマリアといった。天使は、彼女のところに来ていった。「おめでとう、恵まれた方。主があなたと共におられる。」マリアはこの言葉に戸惑い、いったいこの挨拶は何のことかと考え込んだ。すると、天使はいった。「マリア、恐れることはない。あなたは神から恵みをいただいた。あなたは身ごもって男の子産むが、その子をイエスと名付けなさい。その子は偉大な人となり、いと高き方の子といわれる。神である主は、彼に父ダビデの王座をくださる。彼は永遠にヤコブの家を治め、その支配は終わることがない。」マリアは天使にいった。「どうして、そのようなことがありえましょうか。わたしは男の人を知らないのに。」天使は答えた「精霊があなたに降り、いと高き方の力があなたを包む。だから、生まれる子は聖なる者、神の子と呼ばれる。

以上のような聖書の記述をもとに、レオナルド・ダ・ヴィンチやフラ・アンジェリコなど多くのイタリアルネサンスの画家たちが、富裕貴族の依頼や支援でキリスト教絵画として「受胎告知を」制作したものとされており。

少し堅いお話になってしまい、誠に申し訳ございませんが、レオナルド・ダ・ヴィ

ンチ先生の作品にも会うことになっている手前、にわか勉強、それを簡単に説明させていただきました。

柄にもない話をしているうちにバスは、水の都ベネチアに入りました。ガイドさんの説明によると、この都の歴史は五世紀に溯るとのこと、このあたり一帯は葦の生い茂る多数の潟（ラグーナ）の集りで、少数の人達が漁業などで生活する地域であったそうです。

所が当時東方からやってくる騎馬軍団、凶暴なフン族のアッチラやランゴバルト族などの侵入で、その近隣の住民たちがドッチラに逃げれば良いのかさ迷い、大勢の人々が、この潟に逃げ込み終の棲家に決めたのが、この潟（ラグーナ）だそうであります。少数先住民にいわせれば、次から次にと人がやってくる（ウェニ・エティアム）新入者がヴェネチアの名前の由来といわれております。

以来1000年魚と塩しか取れないこの地域を、土地改良土木工事で街づくり、独自の共和制国家と商業主義、海洋貿易都市国家に幾多の困難を克服してのし上り、獲得した富みで、この美しい水の都を作ったそうであります。

今では、巨大な博物館の観光都市となり、網の目のように張り巡らされた大小の水路の上を、水上バス、水上タクシーが行き交い、建物と建物の中の狭い水路はリドと呼ばれ、観光客を乗せたゴンドラの稼ぎ場所であります。

ですからこの水路には袋小路はなく、潮の干満を利用して水を入れ替え、汚れた水はアドリア海が浄化してくれることになっております。

しかし少々ドブくさいので、当地にきて3年目という若いガイドさんに、このあたりの事情を聞いてみました。

昔は生活廃水をそのまま、水路に流しておったそうですが、今は各自浄化槽で処理したものを、水路に排出しているそうです、しかし多少おちこぼれもあるのでは、との話でした。

それにしても少しくらいのドブくささなどは、消し飛んでしまうこの街の美しさは、何時の間にか、そのことさえも忘れさせます。

有名なサンマルコ広場からアカデミア美術館までの数百メートルの間は、古めかしい情緒のある店が並び、世界中のベネチアを訪れた観光客が一度は通る道です。

それを目当てに耳や鼻以外の体中に有名ブランドのカバンをぶら下げ、見たところカバンのなる樹みたいになったアフリカ？の青年が、ポリスの目を盗んで路上販売、チョット遠くから観察してみると、胴元らしき人物が横丁で彼等に指図らしき様子が

見られました。

アブナイ観察はいい加減にして、橋の下を見やると数匹のウグイに似た魚が泳いでいるのが見られ、ほっとしました。

ついでに、この通りの、おこもさんの観察記を少し申し上げます  
一人目は黒い服を着たいかにも、おこもさんらしい風格のある老婆が、サンマルコ広場に近い道端に座っておりました。

浅黒い肌、かぎ鼻といい、顔の皺の数といい貰禄充分、風貌に敬意を表してポケットの小銭を全部小さな皿に入れました。

次は、若い女のおこもさん、先輩の直ぐ近く、低い石段の上に座り上目使いに通る観光客を見ている様子、それなりの格好をしているが細面のチョットした美人です。

なにがしか喜捨しようかな、と思ったが残念先ほどの老婆に、小銭を全部やってしまったので、財布の中には 5000 リラ (約 350 円) 紙幣しかありません、一瞬躊躇したら、目と目がカチンと合いました、どうして、どうして、おこもさんの目ではありません、キラリと目の奥が光りました。

目を逸らせて、その場を去りましたが、どうも怪しい、演劇学校の学生か、俳優の実技体験くさいぞ、そんな感じがしました。

皆さんには 5000 リラがなんだ、コノケチンボ、野次馬根性はどうした、と冷やかされそうです。(この 5000 リラがフィレンツェでへまをやらかす遠因になる)

三人目は初老の男性、背中を丸め横丁のゴミ箱を覗き込んで食事中、先の二人に較べたら貧乏くさくて様になりません、堂々とメイン通りに店を広げ、体を張って己の食事代を、稼いで欲しいと思います。

私もそうなった時には、そうするつもりおりますので、その節はどうぞ宜しくお願い申し上げます。

ごたくを並べているうちに、次なる目的地に着きました。

アカデミア美術館の案内は、立派なひげを、はやした鈴木さんというイタリア 11 年目の男性、外国人が中々取得できないガイドの免許証を胸に着け、豊富な美術や歴史の知識に圧倒される思いで解説を聞きました。

帰り道の雑談で鈴木さんは、最近、望郷の念耐えがたく、イタリア人の奥さんに相談したが、奥さんは反対の立場になるのを、拒んでいるそうで、寂しそうな表情でした、いわく、比較にはなりません、ヴェネチア出身のマルコ・ポーロは 25 年も東洋の旅をしました、私は一度も日本に帰っていませんが、マルコ・ポーロその半分に

もなりません、と笑っていました。

そろそろ陽も沈みかけ、さしずめカラスが鳴くからカーアえろ、というところです。サテ、カラスはと、空やあたりを見まわしましたが、カラスはおろか鳴き声も聞かれません。

あれよ！イタリアにきてまだカラスを見てないぞ、それからは、この日本の旅がらすに、イタリアのカラスを探し求める変な観光も加わりました。

サンマルコ広場横の船着場でも、ねぐらに帰るカラスはおらぬか、遠く彼方に浮かぶ島の教会にイタリアカラスの影を探し求めましたが、確認されませんでした。

イタリアの真っ赤な夕日は、街の景色にもよく似合いこれまた結構な眺め、水上タクシーに乗り、古色蒼然な、なんとかホテルにたどりつきました。

色とりどりの大理石の階段、ピカピカに磨いた真鍮の手摺や、ドア（少々ガタがきているが）の取っ手など、イタリア人は真鍮は磨くものと心得ている人が多いようです。

さすがイタリアは大理石の国、ふんだんに使っております、その重さで沈み行く水の都、それも沈下原因の一つだ、なあーんて余計な心配しなさんな、その時は潜水艇で観光をすればいいのです。

地盤沈下の影響は、それだけではありません、沢山の教区ごとに鐘楼がありますが、私の見た鐘楼のほとんどが、少しずつアチコチに傾いておりました。

斜塔はピサだけでなく、ヴェネチアに沢山ありますぞ、但しピサは円筒ですが、こちらは四角です。

夜はヴェネチアン・海鮮料理デナーに行きましよう、10人ばかり集りました。ホテルの裏が小公園となっており、夾竹桃の植え込みや、小さなドングリのついたシイの樹（と思われる）の下を通り抜けると、大きな運河（カナル）の前に出ました。向こう岸には陸路での入口サンタルチア駅が見えます。

ここはちょうど、小樽運河の前に、夜店が賑やかに立ち並んだ感じの所と思ってください、そこを過ぎると、お目当てのアドリア海産シーフード料理店がありました。

店のショー・ウインドには、海産物の食材が陳列されており、中には変わった風貌の魚がいました、正方形で顔はカジカ、胴体はカレイ、その他あまり見慣れない魚ばかりだった記憶があります。

ガイドさんが案内するくらいの店ですから、日本語の献立表がありました。店の雰囲気はヴェネチアンガラスを、ふんだんに使って情緒満点。

ワイワイガヤガヤ検討しても、落着くところは、大方が、日本でお馴染みの何とかパスタの近辺、日本語の献立表はハブニングがありませんから好し悪しです。

只一人無口なMさん、カジカのカレイにチャレンジです。

ショウ・ウインドの陳列品はメニューに有りませんので、Mさんが現物を指差し、コイツヲクレ、給仕人は手掴みでコイツカ ドウリョウリスルカと聞いているらしいが、ワカルモンカ、イタリア風に料理シテクレとガイドさんに注文です。

出てきたのは、大きな皿にのり、カジカ頭を取られたので、変形ホームベース、所々シャツが破れた、カレイのオリーブ焼きらしい、チヨット味見させてもらいましたが、お世辞にも美味しいとはいえません。

外国旅行は郷に入らば郷に従え、何事にも興味を持つ野次馬根性が必要だ、文化の違いはどう仕様もないのだから、などの教訓を思い浮かべている内に、

Mさんは、カジカのカレイをキレイに食べて、まあまあ味です、とは外交官みたいにエライ方です。

私はムール貝に赤ワイン、しかしこの取り合わせは失敗の巻でした。

運ばれてきたムール貝を見て吃驚、一寸法師が<sup>はしげ</sup>静に乗って出てきた、とは些かオーバーですが、それにしても、この小さい体でよくまあ自分の家の戸締り開閉をしたものだ、と感心はしましたが。

この貝力無双なチビに大きなナイフとフォークで立ち向かいました。

皆さん ヴェネチアに行ったらムール貝に気をつけましょう。

ホッキやホタテ貝たちは、このような見掛け倒しのウソは申しません。

やはりシーフードは北の海、ワインとソーセージはイタリア、しゃべるのは日本語が一番です ムール貝のゼニかえせー

食い物の恨みは恐ろしいちゅうの。

(その二) はこれでおわり

## 野幌自然観察会

当別町 五十嵐一夫

6月3日、朝寝坊のわたしにしては珍しく40分前に森の自然教室に到着。仲間の成田さんと話しながら準備をしていると一般参加者らしい人が尋ねました。今日の観察会は予定どおり開かれますか？ 一般参加の方が一人でもいらっしやれば雨が降ってもやりますと答えたところ、ほっとした表情で、実は台湾からその筋の専門家がきているので、一緒に参加させてもらえないか。(ナニーツ、エライコッチャ) 交換した名刺によるとほんとに専門家のお役人らしい。行政院農業委員会特有生物研究保育中心 (Taiwan Endemic Species Research Institute, Council of Agriculture) 通訳のお姉さまと、どう見ても学生にしか見えない若者たち5人。野幌森林公園に来るつもりで前日インターネットで情報を探していて、観察会が開かれることを知ったそうです。(んー、さすが台湾 電腦先進国)

天候のせいか台湾ツアー御一行様を含め一般参加者は25名程度。レンジャーは12名の参加です。道庁自然環境課の新井田課長の挨拶、われらが川端会長の挨拶に続いて、さっそく5班に分かれて観察会の開始です。「ぜひともあなたが案内して差し上げなさい」会長の一言で台湾の御一行はわたしの担当。(どーしていつも、こういう役回りはオレなの！)

トドマツのこずえをフィールドスコープで見せる。マッチの燃えかすみたいのが上向いてついででしょ。あれ、トドマツの球果のなれのはて、トドマツの松ボックリは下に落ちないのよ。「へー、フムフム、おもしろいもんじゃ」「台湾にもこの木あるヨ」(ナニツ、オメーのところは亜熱帯じゃろ。暑がりのトドちゃんがあるわけねーだろっ。いやまてよ、あの島って一番高いところは3000mくらいあるのよね)「台湾の球果は紫と緑が混ざったような色してるけど北海道も同じ？」同じですよー、フレッシュなやつはそんな色、だんだん茶色になるよ。「台湾は2000m越えないと生えてないけど北海道では平地でも生えるの？」寒いところなので生えますよー。(質問がただもんじゃない)

森の中に入ると寒さのせいでエゾハルゼミの連中はお休み。おかげで鳥さんの声がよく聞こえる。ラッキーなことです。道庁自然環境課の武田さんもいっしょに彼らの質問をさばいてくれるので助かりました。キビタキの声が遠くで聞こえました。新兵器スキャントーカーリーダーと声の出る野鳥図鑑で説明。「何コレ、スゴイ!!」「どこで売ってるの」「台湾でも売ってるかな」「いくらぐらい？」(へー、いいだろ、やらないよー) 武田さん曰く「ひょっとして台湾で作ってたりして」(うっ、スルドイ) スキャントーカーリーダーは紙に印刷されたドット(点)の集まりを小さな機械でなぞると印刷された情報を音声に変換するもので、図鑑のページをスキャンするだけでいろいろな鳥の声を再生できるすぐれものです。

あちこちでさかんにキビタキがさえずっています。「あれえ、さっきのキビタキと鳴き方

が違って聞こえる」キビタキだよ、途中を省略したりしつこく同じとこだけ繰り返したり、うまいへたがあったり、さえずりのバリエーションが豊富な鳥なんだよ。「ホントオ〜」ホントだよ!! (信用してねーな、コイツ)「アッ、コレはキビタキと違うよね」これはアオジじゃ。「どんな鳥？」図鑑を見せてスキヤントークリーダーで声を聞かせる。「ふーん、なるほど、でも全然青くないじゃん」(うっ!!) 日本で自然の色を表現するときは、アオといったら緑も含むのさ。「へえー、本当？」ほんとだよっ。

「うわー、ランだ」「何ていうラン」コケイランだよ。小さな惠蘭とゆー意味じゃ。「惠蘭ってどんなラン？」コケイランの大きなやつだよ、見たことないけど・・・ランはやりたくなかったんだけど目立つのですぐ見つかってしまうなあ、やっぱり。「コレは何という花?」「コレは?」「アレは?」「科はナニ科?」(やっぱりただもんじゃねえー)

トドマツのヤニコブをつぶして松ヤニのにおいを嗅がせるとキャーキャー喜ぶ娘さんたちでありました。ニューナイスズメが巣穴から顔を出してうるさい私たちに警戒しています。キビタキが目の前まできてさえずってくれました。みんな大喜び。「この森には人の手は入ってるの?」150年以上前から人が入ってけっこう切られてるよ。だからあんまり太い木ないでしょ。それと寒いから、あんだのとこみたいにすぐには密林のように回復できないのよ、成長遅いから。「フムフム、そうかあー、納得」

質問攻めの2時間。最後の質問は瑞穂池の看板の漢字の読み方でした。ミズホイケって読むのだよ。ドゥーユー アンダスタンド? 互いの自国語と相手の流暢な英語、わたしのかたことの英単語が飛び交うながらバトルロイヤルの様相を呈したアカデミックで国際感覚あふれる珍観察会でした。メデタシ、メデタシ。(アーしんど、抜れたわい)



コケイラン (小惠蘭) ラン科  
ササエビネ (笹海老根)  
*Oreorchis patens*

## 第16回定期総会報告

事務局

平成13年度の定期総会は4月7日(土)かでの27で開催されました。

例年定期総会前に行われる、会員研修会は、北海道環境生活部環境室自然環境課の課長補佐 但野五之さんの講師で「ボランティア・レンジャーその活動と今後に期待するもの」の予定でありましたが、但野五之さんが転勤のため、急遽同課ふれあい係長の斎藤利美さんの「北海道の自然」と題する講演に変更されました。

次に、第16回定期総会が会員総数148名中、出席会員34名委任状83名計117名で総会成立、川端会長及び来賓野幌森林公園事務所長 赤沼利和さんの挨拶の後、議長に札幌支部の鈴木義治さんを選出、直ちに議題の討議に入りました。

総会は鈴木議長のスムーズな進行により、終始和やかに運営され各議案とも承認されました。

今回の総会での、討議の主な点を報告しますと、

- ボランティア保険について 今までボランティア保険は、当会の主催する観察会についてのみ、当会の負担で実施してきましたが、他の会の状況を見ると、参加費を徴収している会が多く、参加者負担にすべきであるとの意見が出されました、この意見については、14年度以降検討することになりました。

参考までに、保険金額は参加者50名まで、1観察会当たり¥1,500です。

- 観察会の一般参加者数と協力レンジャー数の報告を議案書に記入の指摘がありましたので、別ページで報告します。
- 会計報告については、会員数の減少傾向に伴う会費収入の減を、成田伸一会員の紹介による企業の寄付金が、それらを補って余りあり、感謝の報告がなされました。

また、今年度より育成研修が北海道の所管に戻り、育成研修受講への新規会員の勧誘に力を入れることが、確認されました。

- 冒頭の川端会長の挨拶にもありましたが、平成13年度では北海道環境財団の助成金による、会員研修の充実があります。

今年度は村野道子さんによる「よく似た植物の見分け方」2回

田城敏雄さん「蝶、昆虫、キノコ類の観察」4回を野幌森林公園で実施します。

今年度は、助成金による研修会の手始めで、これを参考に将来は地方支部の連携にも、役立たせたいものと考えております。



# 北海道ボランティア協議会

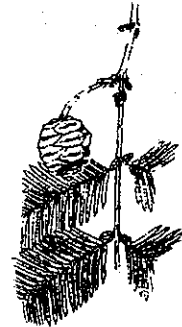
平成13年度

## 第16回定期総会議案書

とき 平成13年4月7日(土) 15時～17時  
ところ かでる2.7 7階 710号会議室  
札幌市中央区北2条西7丁目 電話 011-231-4111



エゾマツ



メタセコイア

北海道ボランティア協議会事務局

〒061-2284 札幌市南区藤野4条7丁目277-74

電話 FAX 011-592-4222

# 今年ボランティア国際年

北海道ボランティア・レンジャー協議会 15周年を迎えて

1986年8月北海道の企画で第1回ボランティア・レンジャー育成研修会が千歳市支笏湖で行われ、その年の12月「北海道ボランティア・レンジャー協議会」が結成されました。

以来昨年、厚岸での第20回まで育成研修会を受講された方たちは、全道に散在しその数は800名を有に超えており各地で活躍されておられることと思います。

当会も結成以来 **自然と人との橋渡し** を合言葉とし野幌森林公園を中心に道内各地で自然観察会を開催してまいりました。

5年前の10周年記念行事には「野幌森林公園 自然観察ガイドブック」を資金面では多く

## ボランティア国際年

1997年の国連総会で日本が提案し、2001年をボランティア国際年とすることが決まりました。

カンボジアで国連ボランティア活動中に亡くなった中田厚仁さんの父で、国連ボランティア名誉大使の中田武仁さんが提案しました。日本では昨年10月に推進協議会が発足し、全国社会福祉協議会などが運営委員団体となって各種の活動を行う予定です。

の会員の皆様や関係方面の方々に協力を頂き、ガイドブックの制作は広報部を中心にそれぞれ会員の特技を結集して完成させました。

また、会員に配布した残りのガイドブックを開拓記念館文化振興会の協力で販売昨年9月好評を受け完売しました。

それらの資金は来るべき20周年

の記念事業資金として蓄積されております。

さて、次に当会が結成以来の課題であります地方支部との連携であります。

この課題につきましては、過去幾度となく討論されたきたのに拘わらず、未だに資金面や人的面の制約で、ごく一部の支部としか実現されておられません。

しかしながら、近い将来助成金の活用など会員の皆様の知恵で解決されるものと確信しております。

また、地方支部に所属する会員は年会費を納入し、年4回発行の会報「エゾマツ」を受け取るのみではなく、北海道ボランティア・レンジャー協議会の会員である、メリットを生かし、アイデンティティに誇りをもって、自然観察会の開催や参加をしては如何でしょうか。

参考までに後志支部の北原会員のように一昨年来小樽近郊の観察会を開催、時には佐々木幸夫顧問の応援を得るなど、独自の工夫をして参加者共々自然を楽しむ観察会を、開催している会員もおられます。

ヘッドラインにあるように、今年ボランティア国際年です。

ボランティアの基本は「人の役に立ちたい」という意識と「自分には何が出来るか」との意欲であります。ボランティアをして得られるものは、自分自身の心を満たす喜びであると、多くのボランティアが語ります。

# 平成13年度第16回北海道ボランティア協議会定期総会

日時 平成13年4月7日 (土)

受付 13:00—13:30

研修会 13:40—14:40

総会 15:00—17:00

場所 かでる2.7 7階 710号会議室

研修会 ボランティア・ボランティア その活動と今後に期待するもの

講師 北海道環境生活部環境室自然環境課 斎藤 利美 様

定期総会 司会進行 総務部

定期総会次第 出席 委任状 総会成立確認 総務部

1. 開会のことば 田村副会長
2. 会長挨拶 川端会長
3. 来賓挨拶と紹介  
北海道環境生活部環境室自然環境課 課長補佐 山田 勝治 様  
自然ふれあい係長 斎藤 利美 様  
野幌森林公園事務所長 赤沼 利和 様  
公園利用課長 阿部 好数 様  
主任 永安 芳江 様  
滝下 佳穂 様
4. 議長選出と議事録署名人の選出
5. 議長就任挨拶と議事録署名人の紹介
6. 議事  
議案1 平成12年度の事業報告  
議案2 平成12年度の決算報告及び監査報告  
議案3 平成13年度の事業計画案  
議案4 平成13年度予算案  
議案5 その他
7. 議長退任
8. 閉会の言葉 五十嵐副会長

連絡事項

## 議案 (1) 平成 12 年度事業報告

1. 北海道ボランティア協議会第 15 回定期総会 会員 161 名 出席、委任 119 名  
平成 12 年 4 月 8 日 (土) 15:00-17:00 かでる 2.7 出席者 40 名委任 79 名  
以上により会則第 17 条を充足し総会は成立した。
2. 北海道ボランティア協議会役員会  
第 1 回平成 12 年 5 月 19 日サポートセンター  
第 2 回平成 12 年 9 月 1 日サポートセンター  
第 3 回平成 13 年 1 月 20 日サポートセンター 三役会平成 13 年 1 月 20 日  
第 4 回平成 13 年 3 月 23 日サポートセンター、
3. 自然観察会 \* 野幌森林公園内での観察会は公園事務所の協力を得ています。
  - ありがとう観察会 平成 12 年 5 月 14 日 (日) 野幌公園 (事) と共催
  - 旭川自然観察会 平成 12 年 5 月 28 日 (日) 地方支部との協力
  - 野幌自然観察会 平成 12 年 6 月 4 日 (日) 環境月間協力行事  
北海道と共催
  - 恵庭自然観察会 平成 12 年 6 月 18 日 (日)
  - ニセコ自然観察会 平成 12 年 7 月 11 日 (日) 地方支部との協力
  - 真駒内自然観察会 平成 12 年 7 月 23 日 (日)
  - 利根別自然観察会 平成 12 年 8 月 27 日 (日)
  - 野幌自然観察の集い 平成 12 年 9 月 10 日 (日)
  - ありがとう観察会 平成 12 年 11 月 12 日 (日) 野幌公園 (事) と共催
  - 野幌早春の観察会 平成 13 年 3 月 25 日 (日)
4. 会員研修
  - (ア) 研修会「ボランティアになっての体験」  
講師 北海道ボランティア協議会顧問 佐々木幸夫氏  
平成 12 年 4 月 8 日定期総会の前
  - (イ) 交流会 ニセコ自然観察会の下見のあと、懇談、スライド上映平成 12,7,8
  - (ウ) 自然観察会の下見 会員研修の実施と位置付けている。
5. 会報「エゾマツ」の発行  
第 53 号 平成 12 年 6 月 25 日 第 54 号 平成 12 年 10 月 15 日  
第 55 号 平成 13 年 1 月 15 日 第 56 号 平成 13 年 3 月 30 日
6. 支部・地方幹事との関連
  - (ア) 旭川、ニセコ、恵庭の観察会での協力を得る。

(イ) 後志小樽地区において、北原会員が中心となり下記の観察会を開催した

- 天狗山～オコバチ山 平成12年2月26日 (土)
- 旭展望台～長橋周辺 平成12年3月18日 (土)
- 旭展望台～市有林 平成12年5月13日 (土)
- 赤岩～オタモイ海岸 平成12年5月27日 (土)
- 丸山～穴滝 平成12年6月10日 (土)
- 春香山 平成12年7月8日 (土)
- 余市岳 平成12年9月23日 (土)
- 天狗～穴滝 平成12年10月14日 (土)
- 市有林 平成12年11月11日 (土)

## 7. 関連団体への参加と協力

(ア) 北海道野幌森林公園事務所主催の「森の観察会」への協力

- 4月の森の観察会 平成12年4月13日 (木)
- ありがとう観察会 平成12年5月14日 (日) 道ボと共催
- 野幌自然観察会 平成12年6月4日 (日) 環境月間協力行事  
北海道と共催
- 夏の森の観察会 平成12年7月16日 (木)
- 8月の森の観察会 平成12年8月10日 (木)
- 秋の森の観察会 平成12年10月15日 (日)
- ありがとう観察会 平成12年11月12日 (日) 道ボと共催
- 12月の森の観察会 平成12年12月7日 (木)
- 1月の森の観察会 平成13年1月18日 (木)
- 冬の森の観察会 平成13年2月25日 (日)

(イ) 第2回環境道民会議に出席 4月25日

(ウ) 当会のホームページを閉鎖した 6月6日

(エ) 北海道ボランティア育成研修会 厚岸、協力 7月7～9日 五十嵐副  
会長、小林研修部長が夫々講師、講習会の補佐として参加した

(オ) 厚別北中学校生徒徒自然観察指導 野幌森林公園 7月14日

(カ) 野幌小学校児童170名学習指導観察会大沢口レンジャー8名 7月1日

(キ) 「レイラ」取材野幌森林公園佐々木顧問 小林研修部長 7月18日

(ク) 野幌森林公園ガイドブック 完売した 7月31日

(ケ) 石狩支庁主催自然教室 千歳市青葉公園、協力レンジャー5名対応  
8月26日

(コ) 厚別北中学校生徒徒自然観察指導 野幌森林公園 9月1日

(サ) 野幌森林公園クマゲラー斉調査への協力 平成13年3月11日  
協力レンジャー3名

8. 備品 携帯無線機2台一組 事務局保管、双眼鏡15台 望遠鏡2台

(4月望遠鏡用自由雲台ベルボン173 2台購入)

聴診器5本 携帯救急医療箱1個

以上野幌森林公園事務所公園課保管

ホームページ作成用デジタルカメラ1台 事務局保管

ファクス電話3台 (大友元会長宅 広報部長宅 研修部長宅)  
コピー機1台 事務局

9. 観察会参加者に対しボランティア保険の加入 利根別 8/27,野幌自然観察の  
集い 9/10 ,早春の森観察会 13年 3/25 の3回
10. ジーエス販売 斎藤社長より寄付金 ¥100,000 成田会員の紹介による  
送金料 120円

議案(2) 平成12年度決算報告及び監査報告

平成12年度決算報告

収入の部

単位：円

項目	予算額	決算額	差額	摘要
前年度繰越金	470.605	470.605	0	
年会費	450.000	420.000	-30.000	140名 会費未納者あり
雑収入	29.395	123.149	93.754	ガイドブック販売代金、寄付金
合計	950.000	1.013.754	63.754	

雑収入 ガイドブック販売代金 45冊 400円送金料 140円 17,860 観察会謝礼 5,000 利子 409  
寄付金 99,880 送金料 120円

支出の部

単位：円

項目	予算額	決算額	差額	摘要
総務部費	120.000	104.866	15.134	通信費、役員会会場費、役員会交通費 ホームページ制作費、賛助金
事務局費	160.000	87.130	72.870	総会会場費、役員会総会通信費、退任役員 6名図書券、事務用品、宅配便、交通費
研修部費	120.000	71.386	48.614	望遠鏡雲台、地方支部交流助成金旭川ニ セコ、資料作成費
活動費	100.000	61.200	38.800	地方支部総会交通費助成、観察会報告会 研修会講師謝礼
広報部費	200.000	169.711	30.289	会報エゾマン作成費、送料、事務費
予備費	100.000	0	100.000	
特別会計	150.000	150.000	0	20周年記念事業積立(ガイドブック等)
合計	950.000	644.293	305.707	

収支残高  
円

単位：

項目	収入	支出	残高
実績	1,013,754	644,293	369,461

¥369,461 を次年度への繰越金とする

特別会計

単位：円

項目	予算額	決算額	摘要
20周年記念行事 準備金	340,000	340,000	
預金利子		150	
平成12年度 準備金	150,000	150,000	通常会計より繰入
合計	490,000	490,150	


### 平成12年度監査報告

監査報告につきまして、諸帳簿ならびに領収書などにつき、つぶさに確認、照合しましたが、

相違なく正確かつ適正であることを認め、監査報告とします。

平成13年3月22日

監事

猪俣 勉 

監事

小泉 郁夫

### 議案 (3) 平成 13 年度事業計画案

1. 北海道ボランティア・レンジャー協議会第 16 回定期総会  
平成 13 年 4 月 8 日 (土) かでの 2.7 で開催
2. 北海道ボランティア・レンジャー協議会理事会を年 4 回開催する、三役会は必要に応じて開催
3. 自然観察会 \* 野幌森林公園内での観察会は公園事務所の協力を得ています

- 野幌森林公園ありがとう観察会 平成 13 年 5 月 13 日 (日) 野幌公園事務所と共催
- 環境月間協力行事 野幌森林公園自然観察会 平成 13 年 6 月 3 日 (日) 北海道と共催
- 恵庭自然観察会平成 13 年 6 月 17 日 (日)
- ニセコ神仙沼自然観察会 13 年 7 月 1 日 (日)
- 真駒内自然観察会 13 年 7 月 29 日 (日)
- 利根別自然観察会 13 年 8 月 26 日 (日)
- 野幌自然観察会の集い 13 年 9 月 9 日 (日)
- 野幌森林公園ありがとう観察会 平成 13 年 11 月 11 日 (日) 野幌公園事務所と共催
- 野幌早春の森 平成 14 年 3 月 24 日 (日)

#### 4. 会員研修

研修会 ボランティア・レンジャーその活動と今後に期待するもの  
講師 北海道環境生活部環境室自然環境課 課長補佐 但野 五之氏  
平成 13 年 4 月 8 日 (土) 総会の前に実施

研修会 似た植物の見分け方 (仮題) 講師 村野道子氏  
平成 13 年 6~7 月 記念館講堂及び野幌森林公園

研修会 蝶、昆虫、キノコ類の観察 講師 田城敏雄 氏  
平成 13 年 6~9 月 下見会の度、4 回程度実施

交流会 ニセコの自然観察会下見の後 平成 13 年 6 月 30 日 (土)  
スライド上映など懇談会

自然観察会の下見を会員研修と位置づけている

#### 5. 会報「エゾマツ」の発行と活動の方針

キャンペーンスローガン「自然との共存、日常の実践から」おテーマにしたい  
「私の一名山」をシリーズものとして継続していきたい  
気軽に投稿してもらおう条件整備を考えていきたい  
冊子の体裁、レイアウトの工夫を重ねていきたい  
紀要発行の具体化に目途をつけたい  
年 4 回の発行をします。

発行日 6 月中旬 10 月中旬 1 月中旬 3 月下旬



6. 支部、地方幹事との連携

小樽地区では昨年同様、北原、真壁会員を中心に年間 10 回程度の観察会を行う予定です、

- 天狗山～オコバチ川 平成 13 年 2 月 24 日
- 天狗山～奥沢水源地 平成 13 年 3 月 24 日
- 穴滝～松倉山 平成 13 年 4 月 21 日
- 旭展望台～市有林長橋方面 平成 13 年 5 月 12 日
- 丸山～穴滝 平成 13 年 5 月 26 日
- 神居尻山 平成 13 年 6 月 16 日
- 余市岳 平成 13 年 6 月 30 日
- 野幌森林公園 平成 13 年 7 月 14 日
- 赤岩～オタモイ海岸 平成 13 年 8 月 4 日
- ニセコ方面 平成 13 年 9 月 29 日
- オコバチ山～穴滝～天神町 平成 13 年 10 月 20 日
- 市有林観察 平成 13 年 11 月 10 日

7. 野幌の森ありがとう観察会 野幌森林公園事務所との共催は昨年同様下記の日程で行います。

平成 13 年 5 月 13 日 (日) 10:00～15:00 大沢口

平成 13 年 11 月 11 日 (日) 10:00～15:00 大沢口

8. 野幌森林公園事務所主催の観察会への協力及び参加

森の観察会 日曜日実施

- ありがとう観察会 平成 13 年 5 月 13 日 ボラレンと共催
- 夏の森の観察会 平成 13 年 7 月 15 日
- 秋の森の観察会 平成 13 年 10 月 14 日
- ありがとう観察会 平成 13 年 11 月 11 日 ボラレンと共催
- 冬の森の観察会 平成 14 年 2 月 24 日

森の観察会 木曜日実施

- 4 月の森の観察会 平成 13 年 4 月 12 日
- 8 月の森の観察会 平成 13 年 8 月 9 日
- 12 月の森の観察会 平成 13 年 12 月 6 日
- 1 月の森の観察会 平成 14 年 1 月 17 日

9. 各関係機関、団体が行う自然保護、環境の保全に係わる調査、研修への協力、参加

議案（4）平成 13 年度予算案

収入の部

単位：円

項目	予算額	摘要
前年度繰越金	369.461	
年会費	450.000	年会費 150 名
雑収入	80.539	寄付金 観察会謝礼など
合計	900.000	

支出の部

単位：円

項目	予算額	摘要
総務部費	130.000	通信費 会議室借用費 役員会交通費
事務局費	100.000	通信費 事務用品費 事務資料費
研修部費	120.000	研修会謝礼費
活動費	100.000	地方支部活動費 観察会交通費、案内要請された時
広報部費	200.000	会報エノマツ制作 郵送費
予備費	100.000	
特別会計	150.000	20 周年記念事業準備金
合計	900.000	

特別会計

単位：円

項目	予算額	前年度繰越	合計	摘要
20周年記念事業準備金	150.000	490.150	640.150	
合計	150.000	490.150	640.150	

議案（5） その他

# 北海道ボランティア・レンジャー協議会

## 平成12年度 自然観察会の参加者実績

平成13年5月30日

観察会の名前	本番の日時	集合の場所	一般参加者の数	協力レンジャーの数
4月の森の観察会	4月13日(木) 10:00~12:00	野幌森林公園 開拓記念館前	41名	6名
森の恵みに感謝しゴミ拾い ありがとう観察会	5月14日(日) 10:00~14:30	野幌森林公園 大沢口	23名	14名
環境月間協力行事 野幌自然観察会	6月4日(日) 10:00~12:00	野幌森林公園 森の自然教室前	27名	12名
恵庭自然観察会	6月18日(日) 10:00~12:00	恵庭公園駐車場	15名	9名
学習指導 野幌小学校児童観察会	7月15日(土)	野幌森林公園 大沢口	180名	9名
夏の森の観察会	7月16日(日) 10:00~14:30	野幌森林公園 大沢口	34名	12名
真駒内自然観察会	7月23日(日) 10:00~12:00	地下鉄真駒内駅 前	3名	7名
8月の森の観察会	8月10日(木) 10:00~12:00	野幌森林公園 開拓記念館前	45名	16名
石狩支庁自然教室	8月26日(土)	千歳青葉公園	50名	5名
利根別自然観察会	8月27日(日) 10:00~12:00	岩見沢利根別公 園 大正池駐車場	27名	10名
野幌自然観察会の集い	9月10日(日) 10:00~12:00	野幌森林公園 森の自然教室前	19名	10名
秋の森の観察会	10月15日(日) 10:00~14:30	野幌森林公園 大沢口	57名	11名
森の恵みに感謝しゴミ拾い ありがとう観察会	11月12日(日) 10:00~14:30	野幌森林公園 大沢口	16名	9名
12月の森の観察会	12月7日(木) 10:00~12:00	野幌森林公園 開拓記念館前	7名	8名
1月の森の観察会	平成13年 1月18日(木) 10:00~12:00	野幌森林公園 開拓記念館前	11名	9名
冬の森の観察会	平成13年 2月25日(日) 10:00~14:30	野幌森林公園 大沢口	10名	14名
野幌早春の森	平成13年 3月25日(日) 10:00~12:00	野幌森林公園 開拓記念館前	48名	11名

第16回定期総会議案補足報告であります。

北海道ホランテア・レンジャー協議会役員名簿

平成13年4月7日

役職	担当	氏名	電話番号
顧問		大友 健	011-621-6054
顧問		佐々木 幸夫	011-898-8177
会長		川端 功治	011-662-5548
副会長	広報部担当	田村 允郁	011-791-0127
副会長	研修部担当	五十嵐 一夫	01332-3-0604
事務局長	総務部長(兼務)	佐藤 健一	011-592-4222
理事	総務部 会計担当	今野 義也	011-382-9707
理事	総務部	樋口 達郎	011-892-2096
理事	総務部	橋場 俊子	0123-24-5892
研修部長		小林 英世	0123-36-3944
理事	研修部	小淵 修子	011-761-3065
理事	研修部	田中 利男	011-572-3019
理事	研修部	伊藤 秀平	011-752-3574
理事	研修部	今村 ひろこ	011-896-4276
理事	研修部	近久 喜枝	011-893-6309
広報部長		稲葉 孝徳	011-736-2585
理事	広報部	香島 由美子	011-865-8928
理事	広報部	三崎 篤	011-772-0563
監事		猪師 勉	011-682-0874
監事		小泉 郁夫	011-832-1903
地方幹事	渡島	白井 信三	0138-65-9821
地方幹事	後志	池田 郁郎	0136-58-2623
地方幹事	空知	岩間 美秀	0126-24-4952
地方幹事	上川	野呂 一夫	0166-84-2567
地方幹事	留萌	谷 志朗	0164-54-2129
地方幹事	網走	和泉 勇	0157-22-2359
地方幹事	胆振	森永 浩	0144-87-2081
地方幹事	十勝	池田 啓介	0155-33-3069
地方幹事	釧路	佐々木 文雄	0154-41-5750
地方幹事	日高	阿部 雄一	01463-6-2395

# 観察会研修会 情報

## 7月以降の自然観察会予定

- ◆ニセコ神仙沼自然観察会……………7月1日(日) 11:00~14:00 ニセコ神仙沼駐車場集合  
(下見 6月30日 13:00~ )
- ◆夏の森の観察会……………7月15日(日) 10:00~14:30 野幌森林公園大沢口園集合  
(下見 7月14日 10:00~ )
- ◆真駒内自然観察会……………7月29日(日) 10:00~12:00 地下鉄真駒内駅前集合  
(下見 7月28日 10:00~ )
- ◆8月の森の観察会……………8月9日(木) 10:00~12:00 野幌森林公園開拓記念館集合  
(下見 8月2日 10:00~ )
- ◆利根別自然観察会……………8月26日(日) 10:00~12:00 利根別公園大正池駐車場集合  
(下見 8月25日 10:00~ )
- ◆野幌自然観察会の集い……………9月9日(日) 10:00~12:00 野幌森林公園森の自然教室前集合  
(下見 9月8日 10:00~ )
- ◆秋の森の観察会……………10月14日(日) 10:00~14:30 野幌森林公園大沢口園集合  
(下見 10月13日 10:00~ )

# 宿泊研修会のお知らせ

初めての試みですが、秋の1日親睦をかねて、1泊の研修会を開催したく企画しました。当会顧問の佐々木幸夫氏を講師に支笏湖周辺で観察会を行ないます。また、バードウォッチング等も企画しています。紅葉の季節でもあります、話がまとまれば集まったメンバーで恵庭岳、樽前山に登るのも良いかと思えます。大勢の会員の参加を心より期待しています。

日時 平成13年9月22日(土曜日)～23日(日曜日)

集合 午後1時

場所 支笏湖観光ホテル 湖水館 (千歳市支笏湖温泉)

TEL 0123-25-2211

会費 11000円程度(予定)

ホテルに荷物を預けたあと、午後1時30分より概4時まで観察会等行ない、その後自由時間、午後6時より懇親会を予定しています。翌朝6時30分よりバードウォッチングを行ないます。8時より朝食、10時解散。交通機関については会員の車の乗り合わせで対処したいと考えています。車のない方、遠方の方もどんどん申し込んでいただきたいと思います。人数が集まればホテルのバスの送迎も考えています。乗合の集合場所は札幌駅を予定しています。

なお、準備の都合もありますので、7月30日までにはがきか電話、またはファックスで連絡していただきたいと思います。また懇親会からの参加もかまいませんので申し込んでください。

連絡問い合わせ先 研修部長 小林英世

061-1371

恵庭市恵み野東5丁目3-1

TEL 0123-36-3944 (FAX同じ)

追伸 双眼鏡、図鑑、筆記用具、スケッチブックをお持ち下さい。

## 編集後記

◆新緑の森の奥から、ウグイス、アカハラ、クロツグミなど、森の名歌手のさえずりが聞こえてきます。森の中を独りで歩くのもよし、親しい仲間と歩くのもよし、そして、ボラレン会員の皆と歩き連帯を深めることが、大きな喜びになることを願わずにはいられません。

◆平成13年度の活動計画も総会で承認されました。役員任期は2年ですので、引き続き各担当部署にて、会の運営と推進にあたります。会員の皆さんの意見要望を吸い上げる役割も果たしていきます。

◆自然を見る目を養ったり、自然の知識を広めるための研修会を今年度は設定しています。会員の親睦や連帯を深めたり、会の発展のために多くの会員の参加を望みたいものです。

北海道ボランティア・レンジャー協議会  
会報誌「エゾマツ」57号 2001.6.15 発行  
発行責任者 川 端 功 治

